



# 「元気いっぱい・笑顔いっぱい」



特別支援教育統括コーディネーター 加賀谷 勝

## 「やってみたい」を形に

今年度、中学校の特別支援学級を中心に、研究授業に向けて学習指導案の作成から関わる機会がありました。その中で、バスケットボールに興味・関心のある3人の生徒が在籍する、ある中学校の生活単元学習、単元名「GO! GO! ハピネッツ」～プレゼントを届けよう～を紹介します。

生徒には、他者とコミュニケーションをとることが苦手である、根気のいる作業や苦手教科に対して逃避する傾向がある、公共交通機関を利用して地域に出掛ける経験が少ないなどの課題がありました。そこで、本単元では、「ノーザンハピネッツを応援したい」、「憧れの選手にプレゼントを届けたい」という生徒の「やってみたい」を形にすることを通して、課題解決を図ろうと考えました。



Part1では、選手に喜んでもらえるプレゼントを制作するために、ハピネッツの関係者に直接インタビューすることを計画しました。質問内容を考え、役割分担をして校内の先生方に何度もインタビューの練習をしました。また、タブレットを活用し、交通機関の利用方法（時刻表の見方、料金の計算等）を調べて校外学習を行いました。

Part2では、インタビューの内容を基に、生徒の得意なことを生かしたプレゼント作りに取り組みました。完成したプレゼントは、①選手の活躍する姿が満載の写真フレーム、②チーム名入りの可愛いティッシュカバー、③栄養満点の手作り野菜です。2月8日（水）、3人は憧れの選手にプレゼントを届けるために、再び秋田ノーザンゲートスクエアを訪ねました。

- ・単元名「GO! GO! ハピネッツ」～プレゼントを届けよう～を見ただけで、生徒が活動にワクワクドキドキ感をもてます。たかが単元名、されど単元名です。
- ・本単元は、他者とのやりとりが必要となるインタビューの練習、長期間根気強さが求められるプレゼント作り、社会経験を広げる買い物学習や校外学習等、生徒の生活上の課題を解決するための活動内容を用意し、繰り返し体験しました。そして、何よりも選手の笑顔を見たいという思いが、3人の心を動かし、主体的に学び続ける原動力となりました。ハピネッツ関係者の特別な配慮により、直接選手にプレゼントを手渡し、感謝の言葉を掛けてもらったそうです。報告を受けた私はうれしさのあまり、教室に掲示している喜びいっぱいの3人の写真を見るとともに、「やったね!」と声を掛けました。



### とれたて直送便



#### 「バスケットボールの審判と授業づくり」



バスケットボールでは、先にプレイを先回りして待ち受けているリード審判とプレイの集団の後ろから追いかけて行くトレイル審判の2人がいます。ハーフコートを6分割し、攻撃と防御が入れ替わる度に、審判の役割も入れ替わります。「ボールのないところ」のプレイが勝敗を決めることもあるため、審判は試合前にお互いの役割と責任範囲を確認します。そして、多くの時間をかけるのは、両チームの特徴を細かく分析して試合プランを立てることで、この

プランがあれば、審判的的確なホイッスルでプレイが進み、選手はもてる力を発揮できます。これは授業づくりと似ています。子どもの実態把握を行い、学習指導案を作成して目標や教師の役割を確認します。授業では、目の前の子どものわずかな表情や言動の変化を感じ取り、指導案に軌道修正を加えながら進めていくことで、子どもの力を最大限引き出すことができます。